

# ふるさと 再発見

広川町郷土史研究会

## ペスト 黒死病と闘った日本人

その1

日本人がペスト菌を発見

明治27年（1894年）、当時イギリス統治下にあった香港でペストが大流行します。駐香港日本国領事であった陸奥宗光は、5月12日付で外務大臣に宛てて「日本へ来航する船舶を検査するのが良いのでは……」と意見を述べています。

日本政府は、伝染病研究所長の北里柴三郎（41歳）と、帝国大学医科教授の青山胤通（29歳）などからなる、黒死病調査団を現地へ派遣（6月5日出航）します。明治27年6月といえば、日清戦争（同8月1日、清国に対して宣戦布告）直前のこと。北里らの調査（死亡した感染者の解剖が中心）は難航したようです。一方、北里らが出航した数日後、ペスト感染者を乗せたアメリカ船ペリユー号が長崎港に入港し、市内は不安で騒然となりました。

ペストは鼠疫とも呼ばれ、大流行の前兆としてネズミが大量に死に、その後人が倒れ始めるといいます。中国ではこの年、10万人単位の人が亡くなりました。そのような厳しい条件のも

と、北里は世界で初めてペスト菌を発見します。6月19日のことで、北里は内務省に宛てて「黒死病の病原菌を発見せり」と打電。すぐに明治天皇へ報告されました（小長谷正明著『世界史を変えたパンデミック』）。

北里以外にもう一人、ペスト菌を発見した人物がいます。スイス人医師のエルサン（パスツール研究所）です。ちなみにペスト菌の学名（エルシニア・ペステリス）は、彼の名に由来します。

長年、誰がペスト菌の第一発見者か論争があったようですが、今日では間違いなく、北里こそが最初の発見者と認められている（小長谷正明著『同』）といえます。

もう一人の調査責任者である青山はというと、実は自らも感染して重篤となりました。香港ではこのときの大流行で感染者2679人、うち死者は2552人、致死率は95パーセン

ト（小長谷正明著『同』）でした。

香港には現在も、青山公路という名の通りがあります。黒死病防疫に命をかけて闘った青山胤通への感謝が込められていることを、北里柴三郎ともども、忘れてはならないでしょう。幸いにも青山は、九死に一生を得て生還することができました。

このときのペスト大流行は、いち早く本国へ通報した陸奥宗光をはじめ、調査団派遣など素早く対応した日本政府、北里・青山など日本人医師の活動により、日本では流行に至らず、水際で防ぐことができました。



青山胤通（前列右端）と北里柴三郎（前列左から2人目）。出典：こんなところに!? なかつがわ【香港に青山通り～ペストと闘った青山胤通たねみち～】(<http://www.city.nakatsugawa.gifu.jp/news/047095.html>)

広川町古墳資料館だより

丑年となりました。牛と人の関係は、ラスコー（仏）の洞窟壁画に描かれた1万5千年以上前から続いています。日本で牛が考古資料や動物遺存体（骨や歯、牛形埴輪）として出土するのは、古墳時代以降です。

6世紀前半、大量の牛が日本へ渡来したことが遺跡の調査からわかっています。お

となしく力の強い牛は、車のけん引や荷物の運搬、田を耕す身近な動物です。古墳の造営にも一役買っていたことでしょう。今は根絶された感染症、天然痘の研究には、牛が感染した天然痘（牛痘）が貢献しました。

当資料館では1月から「疫病との戦い展」を開催しています。ぜひお越しください。



# 総合クラブひろかわ

## 新年おけましておめでとうございます

健やかに新年をお迎えのことと存じます。謹んで新春のお喜びを申し上げます。

「総合クラブひろかわ」は今年、発足して8年を迎えます。今年度は健康セミナーや春のウォーキングの開催、シルバーリフレッシュ教室の支援など、多岐にわたって活動してきました。一方、新型コロナウイルスの影響により、リラクゼーションヨガや吹矢、自衛術の定例教室を2か月間休止せざるを得ない状況となりました（現在はすべて再開しています）。

今年も町民の皆さんとともに、健康増進や仲

間づくりの輪を広げていきます。ご支援・ご協力をお願いして、新年のごあいさつとします。

総合クラブひろかわ会長 稲員信幸



総合クラブひろかわ役員一同▶

〒総合クラブひろかわ事務局（教育委員会事務局生涯学習係内） ☎ 0943-32-0093

# 広川文芸

## ひろかわ俳句会



散り紅葉一葉浮かぶる手水鉢  
秋深し沼の大鯉葦揺らす  
道の駅陳列ケースに栗おこわ  
七重八重庭角に落葉秋深し  
やはらかき陽光を背に冬耕す  
散歩道掃けど掃けども散紅葉  
秋深し花びら二枚よりそいし  
夕暮れの里は静かに冬に入る  
八女津姫眠れる杜や秋深し  
秋深し平和の塔にオスプレイ  
山茶花の緑を分かつ紅一点  
林檎剥く吾が指にふと母重ね  
秋深し抱く親子の草スキー  
芋の葉の真珠の涙こぼしけり

## 櫻の会

娘の家族と元旦祝ふ幸せを亡夫に報告去年もこの日も  
風の路ありしや枯葉連なりて師走の夕べ走り下りぬ  
正月の晴着の丈を直さむと吾呼ぶ母の声音残れり  
実りたる二十数個のしぶ柿に思ひ出ひろげ干し柿作る  
大晦日無観客の紅白はホールにひびく真心に響く  
コロナ禍に迎へし春の佗しけれどはしやぎすぎて遊ぶ孫に癒さる  
常ならば買いたしに行く年の瀬はコロナ怖さにネットで注文  
年明けに老二人には願ひあり足の痛みが薄れますやう  
餅つきの音の響けりふる里に父が杵うち母が応ふる

水本 艶子  
結束 節子  
野中 勝美  
美座 時朗  
柴田 真理  
渡辺 弘子  
福田美知子  
酒井 司  
水本 辰次  
原口 正信  
青木佳代子  
山崎 陽子  
一瀬砂智子  
原口あつ美

細川 徳子  
池田 和代  
中倉 明美  
野中 勝美  
瀧武美智子  
山崎美代子  
一瀬砂智子  
中嶋 玉子  
青木佳代子